

「幸中の文化を支える営み」

241003

今日の合唱コンクールでは、審査員の先生方がそれぞれの意見を持ちながら、苦勞して最優秀賞を選んでいたことを間近で感じていました。事前の合唱指導を経ての今日の合唱コンクールであるので、その時からの成長の足跡をどの学年を担当した先生も感じてみえました。あるクラスのことを指して、「このクラスは、合唱指導をしたときからの成長は、本当にすごいと思う。成長度はナンバー1だ」と強くおっしゃられていました。その言葉を他の2人の先生も頷いてみえて、それぞれにそう感じるものがあることが伝わってきました。そして、それに付け加えて、「私たちはその日だけしか指導はしていないけれども、それからの日々の生徒のみなさんの努力、担任の先生方の指導、言葉かけがどれほどあったことか。本当に苦勞をして創り上げてきたことが伝わってくる」とおっしゃっていました。

また、審査後にお一人の先生が、「幸中の文化」という言葉を発せられました。幸中の合唱で感じることとして、「下級生が先輩の歌声に憧れ、その歌を自分たちも歌いたいと願い、それを乗り越えようとしていく。そんな流れを強く感じる」と話されました。また、合唱に前向きに取り組もうとする姿勢（下地）が根付いていることを感じる」とも言われました。他校の合唱コンクールへの様子はわかりませんし、リップサービスもあるとは思いますが、いくつもの学校で合唱に携わってみえる先生が、そのように感じ、伝えてくださることは、とても嬉しいことでした。合唱に対して一心に向き合い、伸びていこうとする生徒とそんな生徒を支えたいと願う教師。目標達成のためには何が必要かと考える生徒と、自分には何ができるのかと悩み、考え、行動に移す教師。（=命輝く姿）そんな営みが生徒たちと先生方の中に根付いていることこそが文化なのだと思います。その文化の表れとして、前半で紹介した合唱指導を受けた後の驚くほどの生徒の成長があるのではと思いました。

生徒の皆さんと先生たちの一体感のある営みによって、これからも更に幸中生の「命が輝く」ことを願っています。



全校合唱「ふるさと」